



地域学習 (KUDACHU EXPO2025) を振り返る



雪のちらつくような寒い寒い日でしたが、1月22日(木)の午後に地域学習発表会を行いました。どの班も工夫をこらしたプレゼンテーションで、下松の未来を一生懸命考えたものでした。また、先日この地域学習の振り返りを書きました。どの生徒にとっても、この学習が意義あるものになったことがわかり、とても嬉しく思いました。振り返りの一部を紹介します。

フィールドワークで印象に残ったこと (地域の人の努力や工夫など)

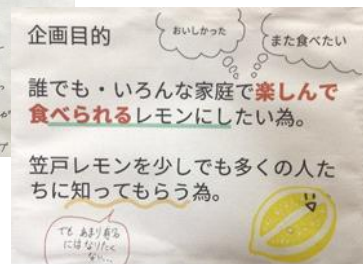
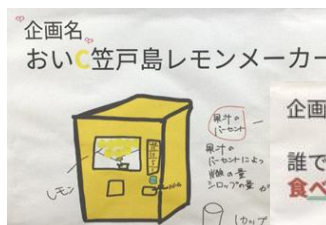
- * 日立の人は長い時間をかけて新幹線を作り、今、私たちが安全に使えていることがわかりました。いろいろなところに工夫があって、使う人たちの気持ちをよく考えてくれているんだと思いました。(日立製作所)
- * お話してもらったどの話からも、お客さんを一番に考えるということが感じられました。子供用の椅子を用意するなど細かい気遣いや工夫がありました。(紅蘭)

プロジェクト制作や 発表用スライドづくりで工夫したこと

- * 見た人に「なるほど!」と言ってもらえるように、また「どうすればわかりやすく伝えられるか」「どんな企画をすれば子どもから大人まで楽しむことができるか」など、相手を優先する工夫を考えました。(妙見宮鷲頭寺)
- * 写真やイラストの配置にこだわりました。文字ばかりでなくインパクトのある写真を使い、下松の観光スポットがパッと見て伝わるようにしました。これは観光協会です。(下松市観光協会)
- * 「笠戸島レモンメーカー」という、自分でサイダーの濃度を調節できる自動販売機を提案しました。消費者目線で「こうだったらいいな」というアイデアを出し合い、私たちだけのいい案が生まれたので、それを具体化し、わかりやすく発表しました。(国民宿舎大城)

学習をとおして「なるほど!」と思ったこと

- * 笠戸レモンの農家さんの班から「レモンがあまり有名になってほしくない」との発表がありました。金輪神社の方も同じで、地域の方々にこそ大切にしてもらいたい、それが下松市にとっても嬉しいことだと分かり、さらに大切にしようと思いました。(金輪神社)



学習をとおして「なるほど!」と思ったこと

- * 下松をよくするために市役所の人たちがたくさん話し合い、時間をかけて計画していることを知り、私たちの知らないところで多くの努力がなされているのだなと思いました。下松はとても愛されているんだなと思いました。
(下松市役所地域交流課)

- * 下松の風土に合った野菜を見つけるとよいと思いました。おいしくて体に良い野菜を作ること、人が集まり続けるのではないかと考えるようになりました。
(下松農業公園)

学習をとおして、地域の課題やよさについて考えるようになったこと

- * 他のグループの発表も聞くと、いろんな人の目線から見た下松の課題がたくさん出てきていました。そして、それらをどのように直していくかという取組を聞き、改善していこうという姿勢が見えて、自分にできることを手伝えたい、という思いが強くなりました。
- * ぼくは下松市には「これ」というものはないと思っていました。でも地域学習をとおして何もないというのではなく、知らなかっただけだったのだ、ということが分かりました。
- * 他人事でなく、自分から主体的に地域について考えるようになりました。「下松のあれがいやだ、こうなってほしい」と言うだけでなく、自らその望んだ未来を実現するために考えてみるのが大切なのだと学びました。

学習をとおして、変わっていった私の「くだまつ愛」

- * 今まで下松は好きだったけど、この学習をとおして知らなかった良いところや魅力を知ることができて、お寺や神社など行ってみたいところも見つかって、より深く下松のことを好きになることができた気がします。
- * 初め下松市の良いところには下松の「町」についてを書いていましたが、それに加えて、下松の「人」がよいのだ、と思いようになりました。下松市について真剣に考えてよくしていこうと思っている人がたくさんいたことが下松市の良いところだと考えました。
- * 今まで以上に下松のことが大好きになりました。この学習をとおして下松の歴史や魅力など様々なことが学べました。これからも若い世代の私たちを筆頭に、もっとたくさんの人に下松を好きになってもらいたいです。

